

# 成果報告書 概要

2010年度助成		(実践期間：2011年4月1日～2012年12月31日)	
タイトル	『学ぼう！探ろう！やってみよう！環境に優しい活動～生徒会活動からの発信～』		
所属機関	北九州市立 尾倉中学校	役職 代表者 連絡先	学校長 太田 祐司 093-661-6516

対象	学年と単元：	課題
小学生	対象 全学年	教師の指導力向上を目指す教員研修、実験方法指導、教材開発
○ 中学生	特別活動	子ども達の科学的思考能力の向上を目指す授業づくり、教材開発
教員	総合的な学習の時間	ものづくり(ロボット製作等)による、科学分野で活躍する人材の育成
その他		○ その他



実践の目的：	ボランティア活動と環境教育を通して、生徒が地球環境に関して確実に行動を起こすことができるようにする。また、異文化理解を促進するために最善を尽くし、国際感覚を養い、多様な文化を持つ人々が共存できる社会を実現するための意識を高めていく。
実践の内容：	○生徒会のボランティア活動として、学校周辺の清掃活動、古紙回収、ペットボトルキャップ、空き缶、プルタブなどの回収などを行った。 ○学校近隣にある JICA の海外からの研修生と環境国際交流会を開き、環境問題について意見交換を行うとともに、環境問題に関する講演や集会を行い、生徒が新しい情報や貴重な知識を得ることができる機会を作った。
実践の成果：	○生徒会を中心としたボランティア活動や環境国際交流会の継続実施が評価され、ユネスコスクールに認定されるとともに認定状を授与された。 ○JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテストに多くの生徒が出品し、学校賞を受賞するなど生徒の国際協力に対する意識の高まりが見られた。
成果として特に強調できる点：	○2012年7月に世界に約9000校あるユネスコスクールに仲間入りできたことは今後の環境を視点とした国際交流の幅を広げることにつながる。ユネスコスクールは国内にも約460校あり、今後も情報交換をしながら環境教育に広がりを持たせていきたい。

# 成果報告書

2010年度助成	所属機関	北九州市立尾倉中学校
タイトル	『学ぼう！探ろう！やってみよう！環境に優しい活動～生徒会活動からの発信～』	

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）
2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）
3. 実践の内容
4. 実践の成果と成果の測定方法
5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）
6. 成果の公表や発信に関する取組み
7. 所感

## 1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）

本校は皿倉山の丘陵地に位置している。近隣には、国際村交流センター、響ホール、九州国際大学、JICA九州国際センターそして北九州国際技術協力協会 KITA 等の文化施設が点在し、自然と教育環境に恵まれている。平成15年に生徒会のメンバーが自発的に学校周辺の清掃活動を始め、翌年古紙や空き缶の回収、平成19年には学校近くの商業施設でペットボトル回収箱を見つけたのをきっかけに校内で「ペットボトルキャップで世界の子どもたちにワクチンを」の活動を始めた。そして次第にリサイクルの輪が広がり、現在に至っている。そのような背景から、地球規模の視点で世界の環境を考えるとともに実践していく力の育成が重要と考え、実践の目的を「ボランティア活動と環境教育を通して、生徒が地球環境に関して確実に行動を起こすことができるようにする。また、異文化理解を促進するために最善を尽くし、国際感覚を養い、多様な文化を持つ人々が共存できる社会を実現するための意識を高めていく。」とした。

## 2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）

### 国際交流活動

#### ○JICA 研修員との交流会

JICA九州国際センター、KITA（北九州国際技術協力機構）との打ち合わせ。

#### ○韓国トンヨンの中・高生との国際交流会

北九州市環境政策部、北九州ESD協議会との打ち合わせ。

#### ○モンゴルの子ども達との交流会

青少年育成協議会との打ち合わせ

#### ○機材の準備

コンピュータ、DVD再生装置、プロジェクター（購入）、スクリーン、マイク、放送設備

### 3. 実践の内容

○環境教育、国際理解教育を中心として、人権教育、防災教育、キャリア教育などに研究を広げ、それぞれ関連させながらESD（持続発展教育）の推進へと研究を広げていった。

#### 生徒会を中心とした環境美化活動と3R活動（平成15年より継続している）

- ・毎週火曜日に学校周辺の地域清掃を行っている。
- ・古紙回収、ペットボトルキャップ、空き缶、プルタブ回収などは常時行っている。
- ・コンポストを設置し、残食など生ごみを再資源化している。

#### JICA 研修員との環境国際交流活動（毎年開催）

- ・本年度は、5カ国6名の研修員と全校生徒による環境をテーマとした交流会を開催し、それぞれの国における環境の課題やそれらに対する取組について意見交換を行うことができた。

#### 韓国トンヨンの中・高生との交流会（平成23年）

- ・韓国トンヨンから28名の中・高生が来日し、本校においてESD（持続発展教育）をテーマに環境や食、職業選択などについてDVDや写真を使ったプレゼンテーションを行い、それぞれの意見や考え方を交流するとともに親睦を深めることができた。

#### モンゴルから来た子どもたちとの交流会（平成24年）

- ・青少年育成会主催のモンゴル児童保護施設「太陽の子ども達」交流会に、生徒会執行部から13名の子どもたちが進んで参加し、将来の夢について語り合い交流を深めた。

#### 学校行事に位置づけた環境美化活動（毎年）

- ・皿倉山清掃登山（5月）

本校の1年生は毎年5月に、皿倉山登山を行い、自然の植物にふれあいながら登山を楽しむとともに、身近なふるさとの山の美しさを維持していくためにゴミ拾いを行っている。

- ・地域清掃（9月）

毎年、体育大会の前日の校内清掃活動（2・3年生）に合わせて、1年生は学校周辺の清掃活動を行っている。（側溝の木の葉を取り除く作業など普段できないことを時間をかけて行う。）

#### 環境・人権講演会の開催（毎年）

- ・「てんつくマンさん講演会」（平成23年）

東日本大震災の復興のためにボランティアとして参加したてんつくマン氏の話聞きながら、自然災害の怖さやそれを克服していこうとする人間の強さについて話を聞くことができた。

- ・「植松努さん講演会」（平成24年）

町工場で「爆発しないロケット」を研究し、宇宙開発に取り組む植松氏の「思うは招く」「夢をあきらめない」ことについて話を聞くことができた。

#### 学校活動紹介リーフレット「ユネスコスクール尾倉中学校」の作成

- ・環境教育、国際理解教育を中心にした本校の取組を紹介するリーフレットを作成し、保護者や地域へ活動をアピールした。

#### ユネスコスクール全国大会への参加

- ・ユネスコスクール全国大会へ参加し、リーフレットを配布するとともに情報を収集することができた。

#### 4. 実践の成果と成果の測定方法

##### 成果

- ・平成23年度より、環境教育、国際理解教育の研究から、人権教育、食育、キャリア教育、防災教育などへも関係性をもたせ、環境教育を中心としたESD（持続発展教育）の推進へと研究を広げることができた。
- ・今年7月、本校は北九州市の公立中学校で初めてユネスコスクールに認定された。
- ・学校活動紹介リーフレット「ユネスコスクール尾倉中学校」を作成し、地域や保護者にその活動を紹介することができた。
- ・生徒会を中心とした環境美化活動や古紙回収、ペットボトルキャップの回収など3R活動が生徒の活動として定着している。また、ユネスコスクールの認定、市政テレビ取材、放送などで、さらに生徒の意識を高めることができた。
- ・平成23年度 JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテストに多くの生徒の応募し、国際協力への意識の高まりが見られ、本年度は学校賞を受賞することができた。
- ・平成23年度と24年度に本校の環境教育の取組は「『ここにずっと暮らしたい』まち創りに貢献した」として北九州市より感謝状をいただいた。
- ・2012年度、生徒会を中心とした環境活動、国際交流活動の取組が評価され、北九州市教育委員会より「エコライフ環境賞」を受賞することができた。

##### 成果の測定方法

- ・生徒アンケート、保護者アンケート
- ・教師による自己評価、学校評価者委員による評価
- ・教育委員会への成果報告書の提出及び評価
- ・ユネスコスクール国内委員会への成果報告 など

#### 5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）

- 平成15年から継続してきた生徒会活動を中心とした環境美化活動や3R活動を今後も継続していくことが重要である。
- 平成24年7月にユネスコスクールに認定されたことを機に、さらに視点をグローバル化させ、地球規模で物事をとらえられる生徒の育成に力を入れていく必要がある。
- 国内に約460校あるユネスコスクールとの情報交換を密にするとともに、連携した教育の可能性について模索する。
- ユネスコスクール全国大会などに参加し、世界の情報の収集に努めるようにすることが重要である。
- JICA九州国際センターやKITA（北九州国際技術協力機構）、北九州市環境政策部、北九州市ESD協議会との連携を強化し、海外からの訪問を受け入れ、交流活動の拡大を図る。

## 6. 成果の公表や発信に関する取組み

※ メディアなどに掲載されたり放送された場合は、ご記載ください

- 市政テレビ「北九州魅力ミュージアム」で平成 24 年 11 月 5 日に尾倉中学校の環境教育、環境国際交流の様子が放送された。現在でも市のホームページの「北九州魅力ミュージアム」の動画で見ることができる。
- 市内全小・中学校の児童・生徒全員に配布される PTA 協議会が発行する新聞に尾倉中学校の取組が 1 面すべてに紹介された。
- 学校活動紹介リーフレット「ユネスコスクール尾倉中学校」を作成し、地域や保護者にその活動を紹介することができた。

## 7. 所感

このたび、日産財団より理科・環境教育助成をいただいたことで、JICA 研修員、韓国トンヨン、モンゴルの子ども達など、環境国際交流会を充実することができ、生徒の国際感覚を広げることができた。また、本校の取組をリーフレットにすることができたことは、学校活動を市内全体に広報するきっかけとなった。現在は、ユネスコスクールとして継続研究を進めていて、この活動が未来の生徒へ受け継がれ、継続されるよう今後も努力していく所存である。